

開催報告書

教えて！研究留学のあれこれ！！～海外経験が広げたキャリアの可能性～

進化学若手の会 平石拓海

● 開催情報

- ・ 開催形態：zoom によるオンライン形式対象
- ・ 実施期間：2025 年 6 月 29 日
- ・ 対象および人数：

海外へ留学に興味を持つ学生（学部生および院生）を主なターゲットとした。実際には、学部生、修士課程学生、博士課程学生といった学生だけでなく、客員研究員、特任助教、企業の方、一般の方といった幅広い方から計 83 名から参加登録を受けた。この中では博士課程学生の割合が最も高く、全体の半数を占めていた。当日の zoom 最大同時接続数は 47 名だった（幹事と講演者を含む）。

- ・ イベントホームページ：<https://evowakate.wixsite.com/website/past-events>

● 開催趣旨

研究者のキャリアパスとして、海外での経験は重要になると考えられる。しかし、そうした海外での経験が研究者（具体的には PI）を目指すうえでどのように役立つのか、どのようなスキルや経験を積むべきなのか、そもそも海外を経験すべきなのか、といったことを知る機会は非常に限られており、そのため意識もされにくい。とくに、こうした情報を知るべき学生（学部生や院生など）に向けた留学のセミナーは学会等でもほとんど行われておらず、親しい先生や先輩などから個人的に聞くくらいしか機会がない。そこで、研究者志望の学生に向けて、上記の疑問点を解消する講演会を開催しようと考えた。演者としては、海外留学を終えた若手 PI を招待する。開催方法としては、より多くの学生が参加可能となるように、また現在も海外在住の講演者を呼べるように、オンライン開催（zoom）とする。本講演会をきっかけとし、より多くの学生が海外を意識すること、ひいては研究者として成長することに繋がりたい。

● 広報

- ・ 若手の会の幹事が所属する進化学会、動物学会、応用動物昆虫学会、昆虫学会のメーリングリストでの宣伝
- ・ 若手の会の幹事が所属する slack 等での周知
- ・ tayo の web ページ上での告知
- ・ X（旧 Twitter）での告知
- ・ 若手の会 HP での告知

参加者アンケートの結果、学会のメーリングリストで知った人が最も多かった(約 40%)。続いて、X での告知(約 18%)、slack での告知(約 14%)が多かった。

● 開催内容

・ プログラム

- 9:00-9:05 主催者による趣旨説明および聴講における注意
- 9:05-9:50 牛木亜季 先生
(現 ワシントン大学セントルイス助教、留学先 カリフォルニア大学)
「米国で PI になるまでの道のり」
- 9:50-10:35 後藤寛貴 先生
(現 静岡大学助教、留学先 ワシントン州立大学)
「あるひとつの海外留学体験談」
- 10:35-10:45 小休止
- 10:45-11:30 越川滋行 先生
(現 北海道大学教授、留学先 ウィスコンシン大学)
「アメリカ研究留学、帰国から 10 年経って」
- 11:30-11:50 総合討論

※総合討論では、参加者から事前に集めた質問を若手の会側で 3 つにまとめ、講演者全員に質問した。また各講演者の講演中に聞けなかった質問を追加で受け付けた。

・ 講演の概要

○牛木亜季先生：「米国で PI になるまでの道のり」

ポスドクとしての海外留学から PI になるまでのキャリア形成の方法に重点を置いたお話を頂いた。まずご自身のマウス遺伝学との出会いやマウス遺伝学に強いラボにポスドクとして参加した経緯、それらにもとづいた海外ラボの探し方や応募の仕方を教わった。アメリカでポスドクから PI へキャリアアップしたご自身の経験から、アメリカと日本の研究上のメリットやデメリット、アメリカでのポスドク時に申請すべきグラントなどのお話も頂いた。

○後藤寛貴先生：「あるひとつの海外留学体験談」

「海外留学はひとそれぞれで、単一の正解も失敗もない」という結論のもと、ご自身の留学経験をお話し頂いた。先生ご自身の留学は決してキラキラしたものではなく、むしろ地味だった(毎日の生活や食事、娯楽、研究として学んだことなど)と教わった。また、海外留学を決めたきっかけも崇高な理由があったわけではないこと、しかしながらこれら海外での経験は今の仕事でも自信などとして活かしていること、結局のところ経験を活かすも活かさないも本人次第であることなどを教わった。

○越川滋行先生：「アメリカ研究留学、帰国から 10 年経って」

アメリカの進化発生学ではトップクラスのラボにポスドクとして留学した経験をお話頂いた。そこはトップジャーナルの論文を連発するラボで、先生ご自身もそこで得たデータから Nature や PNAS の論文を出すことができたと言われた。これらの論文は自身の代表作といえる論文で、その後のキャリア形成でも役だったものと思われる。また、留学中に非モデルのショウジョウバエでのトランスジェニックの作出に成功し、このことは技術や自信として現在の研究に活かしていると教わった。加えて、アメリカに留学する中で感じた、トップラボ内の凄い人達と自身の差や、アメリカへの帰属意識を感じないことから、日本への帰国を決断した経緯などもお話し頂いた。

● 参加者アンケート

セミナーの終了後、アンケートを実施し、参加者の約半数にあたる 22 名から回答を得た。本企画の満足度を質問したところ、4 段階中（4 が最も良い）、3 以上が 95.5%、4 が 72.7% となった。自由回答の箇所でも、「運営の方が、会を回すことがとても上手だと思いました」「発表者数がちょうど良かったと思います。質問の時間も十分とれ、解像度の高い情報も得られて、参加して良かったと感じました。」など、ポジティブな意見が多く集まった。ただ、当日は牛木先生への質問時間をあまり確保できず、そのことを言及する意見もあった。今後は休憩時間の配分などを適宜変更し、より柔軟に司会進行を行いたい。



進化学若手の会主催セミナー

教えて！研究留学のあれこれ！！

～海外経験が広げたキャリアの可能性～

留学って必須？

2025年6月29日(日) AM9:00～12:00

オンライン開催

行って
良かったことは？

講演者（講演順）

牛木 亜季 先生（現 ワシントン大学セントルイス 助教）

「米国でPIになるまでの道のり」

カリフォルニア大学（海外学振PD）から博士研究員を経て現職

後藤 寛貴 先生（現 静岡大学 助教）

「あるひとつの海外留学体験談」

ワシントン州立大学（海外学振PD）から名古屋大学（特任助教）、
北海道大学（学術研究員）、遺伝学研究所（特任研究員）を経て現職

越川 滋行 先生（現 北海道大学 教授）

「アメリカ研究留学、帰国から10年経って」

ウィスコンシン大学（海外学振PD）から ハワード・ヒューズ医学研究所
（専門研究員）、京都大学（特定助教）などを経て現職



参加登録はこちらから

URL <https://forms.gle/Q3P4JN9cqj7wbzhM7>

登録締め切り 2025年6月28日17:00

お問い合わせ 進化学若手の会 E-mail: evowakate@gmail.com

本セミナーは公益財団法人中辻創知社からの支援を受けて開催します

広告用ポスター